

●協働学習  
■児童生徒自主学習型

実践タイトル タブレットPCを用いた情報活用実践力の育成

本時のねらい

グラフや地形図、雨温図等の資料から米作りが盛んな地域の土地の特徴を考える。そこで、タブレットPCの地図サービスアプリケーション(Google Earth™)や事前に保存しておいたグラフ、雨温図を見て、米作りの盛んな地域の土地の特徴について考え、自らの考えを資料を見せ合いながら発表できるようにする。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

タブレットPC

米作りが盛んな地域の土地の特徴を考えさせ発表させるためにタブレットPC内の資料等のうち、地形図などを楽しみながら指先で感覚的に拡大・縮小したり、資料同士を比較したりすることで、みんなで深めた考えを発表し合った。

PC教材

資料から、より深まった土地の特徴についての考えを持てるように、教科書や資料集以外の資料やタブレットPCのアプリケーションの3次元的な資料から、視覚的に情報を収集したり、判断したり、表現したりしながら自分たちの考えを深めていった。

参考にしてほしいポイント

本時で用いたタブレットPCは、感覚的な操作が可能であり、使い方は休み時間に事前に慣れさせるだけで済んだ。また、グラフや地形図、雨温図等の3次元的な資料を各タブレットPCに保存することで、これまでのPCとは異なって非常に手軽に見やすい状況で資料を自由に拡大・縮小しながら閲覧できた。そのため、資料の細かな部分まで閲覧することができ、その結果、地形図のわずかな変化でも見逃さず自らの思考を深める姿が見られた。

学習の流れ(分)	主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等	
本時の展開	0 10 15	○前時の振り返りを行う(米の生産量が多い県名を想起させる)。 ○本時の学習課題を知る。 「新潟県の米作りが盛んな理由を資料から考え発表する」 ・タブレットPC内の資料を教師が実際に操作し、説明をする。	・児童が作ったお米マップ ・デジタルテレビ、タブレットPC(静止画・アプリ)(実際の操作を見せる際、全児童が見ることができるよう机や椅子の位置など、環境面について留意する(写真1))。
	35	○班に1台のタブレットPC内の資料をもとに、課題について考えさせる。 ・考えたことは随時ワークシートに記入させる。 ・互いの考えを自由に交流させ、考えの練り上げを行わせる。 ・自分の考えを発表する準備をさせる。	・デジタルテレビ、タブレットPC(静止画・アプリ)(デジタルテレビとタブレットPCを併用し、それぞれに同一の資料(Google Earth™の地形図、米生産額の高い県の雨温図、耕地面積及び生産額の表)を提示しておく(写真2))。
	45	○タブレットPC内の資料を見せながら、自分の考えを発表する。 ・児童の考えを板書する。 ・米作りの盛んな地域の土地の特徴についてまとめる。	・タブレットPC(静止画・アプリ)(Google Earth™の地形図、米生産額の高い県の雨温図、耕地面積及び生産額の表を、拡大など操作しながら自分の考えを説明させる(写真3))。



写真1: タブレットPC内の資料を操作し説明



写真2: 資料をもとに自らの考えを持たせる



写真3: 拡大などの操作を通し考えを説明

児童生徒の反応

本学級は休み時間にタブレットPCに自由に触れられる環境にあるため、使用方法に関する指導を行わなくても児童が操作方法を模索し、互いに伝え合う姿が見られた。タブレットPCは児童にとって感覚的に拡大・縮小の操作ができるため、非常に身近な存在であり、興味を持ちやすいものである。これにより、資料を見る際に、興味を持って細かな部分にまで目を向ける姿が育ち、資料集を見る際にも今まで以上に資料から情報を得ようとする姿が見られた。

活用効果

評価の観点	社会的な思考・判断・表現
具体的変容	学習課題「新潟県の米作りが盛んな理由を資料から考え発表する」から、タブレットPCを通して積極的に資料を見比べ、児童全員が米作りが盛んな理由を考えることができた。また、手元に操作できる資料があることで、自分が考えた理由について資料を拡大・縮小したりしながら説明することができた。中には、タブレットPCの見せ方にこだわり、友だちにどう見せたら自分の考えた理由が伝わりやすいかということまで考えている児童の姿も見られた。

実践の手応え

本単元は、自分たちが普段何気なく食している「米」について考える単元である。当初は農家の工夫や努力、悩みなどの資料を液晶テレビで提示したこともあったが、見えにくいことやみんなで見ていることから、児童の反応は今ひとつであった。だが、タブレットPCで見ることで、自分が操作しているからこそ資料と積極的に向き合う姿が見られた。これをさらに高めるためには本実践ではタブレットPCを5~6人で見ている状況を2~3人に1台へと改善していきたい。